

令和5年2月1日発行

第62号

茨城県県央農林事務所
笠間地域農業改良普及センター

TEL (0296) 72-0701

FAX (0296) 72-2718

HPはこちらから→



普及だより



令和四年度 笠間地域新規就農者 激励会を開催

本激励会は、新規就農した方が地域に溶け込み、安心して農業経営をスタートしてもらうこと、就農への決意を再確認してもらうことを目的として、一月一九日に笠間市地域交流センターともべで開催されました。当日は、笠間市・城里町の令和三年度の新規就農者や今後の就農予定者計一三名が参加しました。激励会は二部制で開催され、第一部では、笠間地域就農支援協議会の富江副会長より新規就農者に対して激励の言葉と共に激励状と記念品が贈られた後、新規就農者の代表として、城里町の染矢喜夫氏が決意の言葉を述べました。第二部では、涌井就農支援アドバイザーより「研修生と共に学んで思うこと」という題で講話をいただいた後、参加者間で意見交換を行いました。就農で苦労した農地探いや技術習得についての意見が出され、今後就農予定の方々にも大変有意義な交流となりました。この激励会を通じて同じ地域で農業を志す仲間とつながりを持っていただき、今後のさらなる活躍を期待します。

農地中間管理事業を活用し、農地の集積・集約を図りましょう

栗栽培開始講座を開催

普及センターでは、栗栽培を始める方のために講座を開催しています。全四回で、栗の収穫や選別、販売方法、植え付けや病害虫防除、せん定などの栗栽培の基礎知識や技術について学びます。

今年度は、第三回までに延べ五九名が受講しています。一〇月の第一回では、栗ほ場で実際に収穫・選別作業を体験しました。十一月の第二回では、栗の販売方法について学び、貯蔵や加工による付加価値販売のシミュレーションを行いました。一二月の第三回では、苗木の植え付け方法や品種特性、施肥、病害虫防除などを学びました。

この講座は、来年度も開催を予定しています。関心のある方は普及センターまでお問い合わせください。



栗園で収穫作業を体験

米の極みコンテスト入賞

二月八日に「第二回 いばらき米の極み頂上コンテスト」最終審査会が水戸京成ホテルにて行われました。県内から八一点の応募があり、食味値や味度値などの評価項目で上位になった六点が最終審査に選出されました。最終審査に城里町七会地区から二点が残り、第二位（アルエット賞）に飯村昭司氏の「ゆうだい21」、第四位に山口好文氏の「ゆうだい21」が入賞しました。七会地区では、毎年、米のコンテストで上位に入賞しており、今年も夏季の高温の影響を受けながらも、適切な水管理や肥培管理したことが受賞につながりました。普及センターでは、今後も良食味米生産を支援していきます。



受賞式の様子

シヨウガ出荷目揃会の開催支援

令和四年産のシヨウガ出荷目揃会が、一〇月二〇日にJA常陸友部花きセンターにおいて開催され、生産者二五名が出席しました。目揃会では、出荷方法の説明や調製時の注意点などが話し合われ、生産者同士でも情報交換が行われていました。今年度は、六月後半からの猛暑の影響と思われる生育不良などが多く確認され、シヨウガの栽培にとっては厳しい気候となりました。普及センターでは、高温・乾燥時の灌水等について講習会において周知してきました。今後もシヨウガの収量・品質を確保できるよう引き続き支援していきます。



シヨウガ出荷目揃会の様子

古内茶生産組合が栽培講習会を開催

一〇月二七日に城里町古内地区で、古内茶生産組合（八戸）の栽培講習会が開催されました。当日は、城里町が古内茶振興を委託したコンサルタントが進行しました。まず、山間地帯特産指導所から来年の一番茶に関する茶園管理について説明がありました。その後、組合員の茶畑に移動して、冬を前にした茶樹の状況を確認しながら情報交換のほか、今年製造した茶の成分分析結果の説明や、今後の古内茶振興に向けた活動計画についての検討が行われました。



茶園で栽培状況を確認

県内で農機具盗難が多発。機械は倉庫へ、鍵は別にして保管しましょう

関東プロック農村青少年
プロジェクト発表会に参加

千葉県市原市にて、一月二日に、青年農業者によるプロジェクト活動の成果や意見の発表会が開催され、本県代表として笠間市でメロンとトマトを生産する栗原渉氏が意見発表の部に参加しました。発表では、中古の機械や資材を活用して初期費用を圧縮するなど、新規で就農する人にとって参考になる事例発表となりました。

栗原さんが所属する「中央アグリクラブ」は、笠間市と城里町の青年農業者のグループです。野菜、果樹、水稲、畜産など様々な経営分野の青年農業者が、お互いに親睦を深め、経営者としての資質を磨くべく、日々活動しています。活動に関心のある方は普及センタ―まで御連絡ください。



意見発表の部で登壇

イネばか苗病

雑草イネに注意

「イネばか苗病」は主に種子で伝染します。発生株は徒長し(写真①)、枯死するため収量が減少します。感染した苗を本田に移植すると病原菌胞子が形成され、風で飛散し、開花期の穂に付着することで籾に伝染します。特にイネの種子採種圃がある場所では感染した苗を植えないように注意が必要です。対策は、種子更新や種子消毒をしっかりと行うことです。種子消毒を行う際は、県内の一部で耐性菌が確認されている薬剤があるため、普及センターにお問い合わせください。

行いましょう。また、有効な除草剤を選定して適期に散布するとともに、後から発生した雑草イネは籾がこぼれる前(水稲の出穂二週間後まで)に抜き取りましょう。

「雑草イネ」とは水田に自生して雑草となるイネで、籾がこぼれやすく、放置すれば玄米に交じり、着色粒混入の被害となります(写真②)。特徴は、籾がこぼれやすい、出穂期や草丈が栽培品種と異なる、芒が赤い(写真③)などです。被害を防ぐためには、耕起や代かき、非選択性除草剤で雑草イネを防除してから移植するなどの対策を



玄米に色がついている

コシヒカリ玄米

写真②

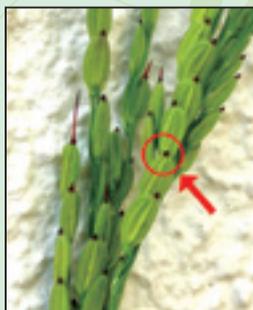
雑草イネ玄米(着色粒)

※農研機構「雑草イネまん延防止マニュアル」より



写真①

イネばか苗病の苗(右三本)



写真③

雑草イネの穂の様子(ふ先が赤い)

肥料高騰に伴う
堆肥活用促進

世界情勢の変化に伴い化学肥料の価格が高騰しています。その対策として堆肥等有機物を活用した化学肥料低減に挑戦してみたいかがでしょうか。

昔の堆肥は稲わら堆肥に代表されるような、肥料分が低く、土づくりに適したものでした。現在の多くの堆肥は、畜ふんを原料の主体としているため、肥料分が昔に比べ高く肥料として効果が期待できます。

広域に流通している堆肥等は内容成分が明確なことが多く、成分含量と肥効率(化学肥料に比べた肥料効果)から施肥量を計算することができます。茨城県畜産センターが開発した「たい肥ナビ!」を活用して施肥量を計算することもできます。

土壌診断により、土壌養分の多少を把握し、足りない分のみ補給していくのが無駄のない施肥法といえます。



たい肥ナビ Web版

新任・退任農業三士のご紹介

七月六日、令和四年度茨城県農業三士の認定・退任式がザ・ヒロサワ・シテイ会館で開催されました。当管内からは、青年農業士として長谷川学氏（笠間市）が知事から認定されました。また、令和三年度をもって、青年農業士の栗原伴治氏（笠間市）と高萩和彦氏（城里町）が退任されました。長い間の御活躍、ありがとうございます。

新青年農業士
長谷川 学 氏

経営類型
ブドウ





サツマイモ基腐病に注意

本病は、九州を中心に発生していましたが、全国的に拡大し、本県でも令和四年一月までに三件の発生を確認しています。感染は糸状菌（カビ）により引き起こされ、保菌した苗・イモ・残さ（葉や茎の残がい）等が感染源になります。収穫したイモは、見かけ上は健全でも貯蔵中に症状が現れることがあり、発病したイモに接すると健全なイモにも伝染します。

育苗から生育期、収穫から貯蔵まで年間を通して発病する恐れがあるため、侵入防止と早期発見早期対策に努めましょう。怪しい症状を見つけた場合は普及センターまで御連絡ください。



生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業(01020C)令和3年度版マニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」より

小ギクを作ってみませんか？

J A常陸笠間地区花き部会が生産する「小ギク」は、実需者から高い評価を得ており、需要期（旧盆・彼岸）の注文に対応しきれない状態が続いております。そこで、部会では新規生産者の募集を行っています。

定年を迎えられる方、稲作中心で夏に比較的手が空く方、小面積で収入を上げたい方（女性も大歓迎！）、他作物からの転換を検討されている方など、様々な方を募集しています。

過去の募集活動で栽培を開始した方が、主力生産者となっております。また、既存生産者が先生役として新規生産者の栽培を支援します。

栽培にチャレンジしたい方は、普及センターまたはJ A常陸友部花きセンター（電話〇二九六（七七）八一六四）まで、連絡をお待ちしております。

注：J A常陸管内に限ります。市場出荷を前提とし、部会に加入していただきます。



新規就農者を募集しています

皆様の周りに、新しく農業を始めた方と思っている方はいませんか。普及センター・笠間市・城里町・各農協では、農業を始めたい方の相談をお受けします。就農相談窓口では、就農や研修に関するアドバイス、各種支援事業（制度資金や新規就農者育成総合対策等）に関する情報提供等を行っています。興味がある方は、お近くの相談窓口へお気軽にお越しください。

就農相談窓口

- 笠間地域農業改良普及センター
Tel. 〇二九六―七二―〇七〇―
- 笠間市農政課
Tel. 〇二九六―七二―〇二〇―
- 笠間市農業委員会
Tel. 〇二九六―七二―〇六六―
- (一財)笠間市農業公社
Tel. 〇二九六―七三―一六四三九
- 城里町農業政策課
Tel. 〇二九―一八八―三二二―
- 城里町農業委員会
Tel. 〇二九―一八八―三二二―
- J A常陸笠間管農経センター
Tel. 〇二九六―七四―四七〇二二
- J A水戸北部管農資材センター
Tel. 〇二九―一八九―二七二二二